授業科目	専門演習ＩＡ			担当教員	池永　正人		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	2年・前期	必修・選択	必修

授 業 の ね ら い

テーマ：観光地域の野外巡検

本学から日帰り可能な観光地域の野外巡検であり、現地において観察・聞き取り・資料収集などを行い、研究成果レポートの作成を通じて、地域研究の基本的手法を修得する。

観点	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
関心・意欲・態度	地域の自然や歴史・文化の観光活用に関心を抱き、調査・研究に取り組むことができる。	野外巡検	30%
思考・判断	観光地域の特性や問題点を見出す観察力・思考力を養うことができる。	研究発表	10%
技能・表現	地域調査の方法やレポートの書き方およびプレゼンテーションの技法を身につけることができる。	研究成果レポート	30%
知識・理解	観光地域の事象に関する自然科学や人文・社会科学の幅広い知識を修得できる。	事前・事後学習	30%
出　席			受験要件
合　計			100%

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

・演習は野外巡検である。
・評価は、野外巡検、研究発表、研究成果レポート、事前・事後学習を総合して行う。

授 業 の 概 要

演習の方法は、以下の手順で行う。
1. 野外巡検の目的・意義・場所・日程・方法などを検討
2. 研究テーマ・内容の設定
3. 研究内容に関する文献・資料の収集と分析
4. 現地調査（前期〈春期〉: 5月下旬か6月上旬に1日実施。観察や役所・観光施設等での聞き取り。）
5. 研究成果レポートの作成
6. 研究発表会

注）専門演習ＩＢとは異なる場所を巡検する。また、旅費は各自で実費を負担する。

教 科 書 ・ 参 考 書

研究地域が決定した後、巡検地に関連する文献を提示する。

授業外における学修及び学生に期待すること

この演習は、地域研究の基本的手法を習得するものであり、観光地の地域調査に関心のある学生の受講を希望する。野外巡検を通じて、観光地域の特性や問題点を見出す観察力を養ってほしい。そのためには、研究対象地域に関する文献・資料を図書館やインターネット等で収集し、積極的に予備知識を身につけることを希望する。

※本演習を選択する学生は、次のコースを履修することが望ましい。　観光ビジネス、または地域デザイン

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	演習の内容	過年度の実績と新年度の演習計画を理解する。	予習：シラバスを読む 復習：野外巡検地の考案
2	前期（春期）野外巡検地の選定	野外巡検（自然観光地）の目的・場所・日程等について検討する。	予習：巡検地の文献調べ 復習：文献を読む
3	巡検地の事前学習①	研究内容に関する文献・資料を輪読する。	予習：巡検地の文献調べ 復習：文献を読む
4	巡検地の事前学習②	文献・資料を輪読する。	予習：文献を読む 復習：文献の要点整理
5	巡検地の事前学習③	地形図を用いて土地利用図を作成し、現象を分析する。	予習：土地利用図作成 復習：土地利用の分析
6	巡検地の事前学習④	観光施設等の観察調査の調査票を作成する。	予習：調査項目の考案 復習：調査票の作成
7	野外巡検の準備	野外巡検の日程・調査票・持参品等の確認をする。	予習：調査内容の確認 復習：持参品等の準備
8	野外巡検（自然観光地）	新緑の美しい５月下旬か６月初旬に、自然観光地（火山・温泉地域）を１日調査する。	予習：調査内容の確認 復習：調査結果の整理
9	レポート作成要領	研究成果レポートの作成要領を理解する。	予習：調査結果の整理 復習：調査結果の整理
10	収集文献・資料の分析	現地で収集した文献・資料を輪読し、内容を分析する。	予習：レポート執筆 復習：レポート執筆
11	レポート提出	研究成果レポートを提出する。	予習：レポート執筆 復習：口頭発表の準備
12	研究発表	作成したレポートをもとに、ゼミ内で個別に口頭発表する。	予習：口頭発表の準備 復習：口頭発表の反省
13	レポートの添削指導	添削されたレポートについて、個別指導を受ける。	予習：レポート内容確認 復習：レポートの修正
14	レポートの修正	添削されたレポートを修正する。	予習：レポートの修正 復習：レポートの修正
15	前期（春期）レポートの受理	修正した研究成果レポートを提出する。夏休みの宿題を与えられる。	予習：レポート提出準備復習：文献・資料の整理

授業科目	専門演習ＩＡ			担当教員	海老澤　昭郎		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	2年・前期	必修・選択	必修

授 業 の ね ら い

国内旅行業務取扱管理者試験合格を目指したゼミとする。
特に国内観光地理および国内旅行実務に力を入れる。国家試験自体は9月上旬。

	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標	評価手段・方法	評価比率
関心・意欲・態度	旅行業及び関連業界への関心が高まり、活自らの旅行意欲が高まる。かつ積極的にゼミ以外でも仲間ともに自主的な勉強会ができる。	学生がテーマ別に解説し、その準備、事前学習を評価する。	20%
思考・判断	どこにどういう観光資源があるか。ツアーを組み立てる際に留意すべき点は何か。旅行業としてやってはいけない行為は何かが判断できる。	課題レポート	10%
技能・表現	最終的な目標である国内旅行業務取扱管理者試験のうちの「国内旅行実務」の科目合格ができる。	模擬試験	50%
知識・理解	国内の観光資源についてかなり専門的な分野まで記憶できる。 また、日本の歴史や風俗・生活について理解できる。	模擬試験	20%
出　　席			受験要件
合　　計			100%

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

模擬試験は3回受験すること。

授 業 の 概 要

内容としては、1年次から開講されている「旅行業法・約款」「国内旅行実務」「国内観光資源」の授業で学習したものである。特に国試の「国内旅行実務」を学ぶ。
本専門演習では国内旅行業務取扱管理者試験の合格をめざし、問題を解きながら学生主体で進めていく。形式としては勉強会を考えてほしい。

教 科 書 ・ 参 考 書

教科書：1. 国内運賃・料金　ＪＴＢ総合研究所　2,400円
　　2. 国内旅行実務Ⅱ(観光地理)　トラジャルウエスト教育事業部　2,500円
参考書:　特になし

授業外における学修及び学生に期待すること

1年次に、「旅行業法・約款」「観光ビジネス実務論」「国内観光資源」の単位を取得しているものが望ましい。なお、単位を取得していてもこの 3 つの授業には出席して欲しい。また、同じように国内旅行業務取扱管理者を目指す城前先生の専門演習、および6限目の特別講座にできるだけ出席すること。
夏休み前後には模擬試験3回および7日間の集中ゼミを行なうので参加すること。模試費用は約5,500円。
なお、国家試験を受験しない者には特段の理由がない限り単位を出さないので注意してください。
※本演習を選択するものは次のコースを履修することが望ましい。観光ビジネスコース(絶対ではない)
また、後期の長期インターンシップ参加を推奨する。

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	約款	国内航空運送約款	問題集２　テーマ１
2	約款	フェリー標準運送約款	同　　テーマ２
3	約款	貸し切りバス標準運送約款	同　　テーマ３
4	約款	ＪＲ旅客営業規則	同　　テーマ４
5	約款	ＪＲ旅客営業規則	同　　テーマ４
6	約款	宿泊約款	同　　テーマ５
7	国内実務　運賃料金	ＪＲ運賃	問題集３　テーマ１
8	国内実務　運賃料金	ＪＲ料金	同　　テーマ２
9	国内実務　運賃料金	ＪＲ料金	同　　テーマ３
10	国内実務　運賃料金	貸切バス　フェリー	同　　テーマ４
11	国内実務　運賃料金	航空運賃、宿泊料金	同　　テーマ５
12	旅行業務	国内観光地理	同地理　　テーマ１
13	旅行業務	国内観光地理	同　　テーマ２
14	旅行業務	国内観光地理	同　　テーマ３
15	旅行業務	国内観光地理	同　　テーマ４

授業科目	専門演習ＩＡ			担当教員	尾場　均		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	2年・前期	必修・選択	必修

授　業　の　ね　ら　い

社会人として必要な幅広い教養的知識を有し、コンピュータでのデザイン力、情報に関する資格取得（Word、Excel、PC検定、観光情報士、カラーコーディネーター検定試験など）を取得できる能力を身につける。
佐世保市のコミュニティFMで毎週日曜日に放送される60分の生番組を担当しているが、観光の情報発信の手段としてFM放送の番組を制作して情報発信することでコンピュータの操作スキルの向上とメディアリテラシーを身につける。また、専門演習での学習成果はTVやラジオ、インターネットで発信する。

	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
関心・意欲・態度	地域活性化とイベントに関心を持ち、専門演習での活動に積極的・意欲的に参加することができる。	授業態度・活動への参加度	50%
思考・判断	発信する情報内容に責任を持ち、情報の真偽を判断することができる。	課題レポート	10%
技能・表現	情報に関するツールを使いこなし、プレゼンテーション力を身につけることができる。	課題提示に対する放送によるプレゼンテーション	20%
知識・理解	情報機器や情報技術の出来事に常に関心を持ち、正しく理解することができる。	資格取得	20%
出　席			受験要件
合　計			100%

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

活動への参加度
ポートフォリオ・Webの活用度、グループディスカッションの内容
ラジオ番組に必要な取材および原稿内容と放送内容
情報関連に関する知識を判断する試験内容

授　業　の　概　要

インターネット技術を理解しコンピュータ関連の資格取得関連はメディアルームや演習室で実施する。
まちづくりや放送に関する演習は現地で実施し、中心市街地に設けられた放送スタジオにて行う。

教　科　書　・　参　考　書

教科書：特に指定しない
参考書：必要な教材等はゼミ独自サーバーおよびポートフォリオ・Webにアクセスして入手すること。

授業外における学修及び学生に期待すること

授業外での多くの活動を実施するが、積極的に欠席なく参加することを期待する。
まちづくりや地域振興に関係する人々と出会い、参加することで新しいアイデアなどを実践で学び、インターネット等の新しい技術を使って観光情報について情報コンテンツの企画力・実践力を身につけることを期待する。
ネットワークを活用した情報の収集・加工を習得し、筆記用具・ノート・コミュニケーションツールや百科事典に代わるものとして、つねに情報のアンテナを立て、演習に活用してほしい。
この専門演習で情報や放送に関する専門知識や社会人基礎力を身につけることを期待する。

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予習・復習
1	専門演習の導入	演習の説明および授業における到達目標の決定	事前に研究室ホームページを参照し活動内容を理解
2	番組視察	放送現場の視察およびまちづくりに関する活動	活動拠点・スタジオの場所を把握する。
3	ポートフォリオ・Web 登録と演習	情報交換に必要なポートフォリオ・Web の登録と演習	SNS の登録とメールアドレスを準備
4	インターネット基礎	インターネットの仕組み　検索術・画像・データ管理	通信機器を準備
5	活動参加	放送現場の視察およびまちづくりに関する活動	活動拠点をインターネットで調査
6	資格の試験対策	資格取得の準備と内容分析	事前に資格の調査分析
7	プレゼンテーション	プレゼンテーション作成の基礎ソウトウエア操作の演習	PowerPoint の活用
8	デザインツールの活用	ソフトウエアの操作習得	Adobe Photoshop 導入
9	デザインツールの活用	アニメーション画像技術、画像編集	Adobe Photoshop 活用
10	デザインツールの活用	プロ志向の本格的なデザインの演習（パス・アンカー処理）	Adobe Illustrator 導入
11	デザインツールの活用	プロ志向の本格的なデザインの演習（レイヤー・グラデーション処理）	Adobe Illustrator 活用
12	番組制作	番組作成のための調査・取材実践。放送原稿の作成	番組テーマの決定
13	情報発信	コンテンツ作成と管理、番組出演、まちづくりに関する活動	作成原稿の確認と読み合わせ
14	番組制作	番組作成のための調査・取材実践。放送原稿の作成	コンピュータを使い作成する
15	情報発信	番組出演、まちづくりに関する活動	番組テーマを決定して作成原稿の確認

授業科目	専門演習ＩＡ			担当教員	金　相勲		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	2年・前期	必修・選択	必修

授 業 の ね ら い

スポーツ競技指導者（コーチ・監督）やスポーツ競技者（選手）が知識として求められている学問（機能解剖学、バイオメカニクス、測定評価、スポーツ心理学）を基に、スポーツ種目における骨格、骨格筋、関節の働きや選手の自己管理法「セルフコントロール」（競技日誌、コンディションチェックシート）を学び、スポーツ競技者の競技力向上におけるスポーツ科学的分野を理解する。

	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標	評価手段・方法	評価比率
関心・意欲・態度	競技種目におけるコーチングおよび競技力向上に寄与できる。	授業への関心・意欲 授業への参加度	50%
思考・判断	こころとからだのコンディションを把握することができる。	競技・運動日誌およびコンディションチェックシートの確認	15%
技能・表現	メンタルトレーニングを実践できる。	メンタルトレーニングの実習参加度	15%
知識・理解	機能解剖学の基本的な骨格および骨格筋や、ヒトにおける関節の動きが理解できる。	課題レポート	20%
出　席			受験要件
合　計			100%

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

授業への参加を評価の最優先値とする。
作成した競技・運動日誌およびコンディションチェックシートを確認し、評価する。
現在行っている競技スポーツや興味がある競技スポーツの活動時における骨格や骨格筋の動きについて考察する。考察のために調査した課題レポート又は調査内容を参考にし、評価する。

授 業 の 概 要

1. 機能解剖学を基に、興味がある競技スポーツの骨格および骨格筋の名称を学び、その関節運動の働きを知る。
2. 競技・運動日誌およびコンディションチェックシートの作成法を学び、実際に記録を行う。
3. コーチングに必要とされるメンタルトレーニング（集中力トレーニング、自律訓練法、イメージトレーニング）を実践する。

教 科 書 ・ 参 考 書

教科書：特に指定しない。
参考書：「人体解剖学：南江堂」「機能解剖学　講義資料：(大和　眞、清田　寛)」→　骨格、骨格筋について参考。
「これから学ぶスポーツ心理学：大修館書店」
「スポーツメンタルトレーニング教本：大修館書店」 →　メンタルトレーニングについて参考。
「バイオメカニクス身体運動の科学的基礎：杏林書店」→　関節の動作について参考。

授業外における学修及び学生に期待すること

・競技スポーツの競技力向上を考えた上で、指導者としてのコーチングスキルや自分自身における競技力向上のための基礎知識の習得を望んでいる者に、受講してほしい。
・日誌およびコンディションチェックシートを記載しておく。

※本演習を選択するものは次のコースを履修することが望ましい。
スポーツツーリズムコースを希望する者又は、競技スポーツを行っている者。

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予習・復習
1	オリエンテーション	自己紹介、演習ＩＡ前期授業の進め方について説明、ゼミにおける目標設定	
2	自己管理方法	競技･運動日誌およびコンディションチェックシートの作成について	日誌およびコンディションチェックシートの記載は、週 3 回以上行う。
3	機能解剖学から見た身体（現在行っている競技スポーツまたは、興味がある競技スポーツの活動時における骨格や骨格筋の動きについて考察する）	1. 基本的な骨格および骨格筋の名称を学ぶ（上肢と下肢）	興味がある競技スポーツの上肢と下肢の骨格と骨格筋の動きについて考える。
4			
5		2. 基本的な骨格および骨格筋の名称を学ぶ（頭部と体幹）	興味がある競技スポーツの頭部と体幹の骨格と骨格筋の動きについて考える。
6			
7		3. 人体の各関節における骨格と骨格筋の動作を学ぶ	興味がある競技スポーツの関節動作について考える。
8			
9	スポーツにおけるマッサージについて	1. 首、背中、腰におけるマッサージ	マッサージ方法を復習する。
10		2. 肩甲骨、上腕（肩）、前腕におけるマッサージ	
11		3. 骨盤（股関節）、大腿、下腿におけるマッサージ	
12	メンタルトレーニング	1. 集中力トレーニング（実践）	集中力トレーニング方法を復習する。
13		2. 自律訓練法（実践）	自律訓練法を復習する。
14		3. イメージトレーニング（実践）	イメージトレーニング方法を復習する。
15	まとめ	演習ＩＡの総括および演習ＩＢとの関連性について	

授業科目	専門演習ＩＡ			担当教員	熊谷　賢哉		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	2年・前期	必修・選択	必修

授 業 の ね ら い

トレーニング科学に関するテキストの輪読を通して、トレーニング科学に関する基礎的知識を理解すると共に、トレーニング科学と密接に関連した学問である運動生理学に関する基礎的知識を理解することを目的とする。また、これらの基礎的知識を、自分が行っている種目や、関心がある種目に応用して考えることができるようになることを目的とする。更に、テキストで扱う、ウェイトトレーニングの実践方法については、実践（実技）を通して修得することを目的とする。

	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標	評価手段・方法	評価比率
関心・意欲 ・態度			
思考・判断	・自分が行っている種目や、興味がある種目を、トレーニング科学および運動生理学の観点から考えることができる。	・プレゼン用レジュメ ・プレゼンテーション	10% 30%
技能・表現	・ウェイトトレーニングの実践方法を修得する	・実技試験	10%
知識・理解	・トレーニング科学に関する基礎的知識を理解することができる。 ・運動生理学に関する基礎的知識を理解することができる。	・プレゼン用レジュメ ・プレゼンテーション	10% 40%
出　　席			受験要件
合　　計			100%

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

プレゼンテーション（70%）については、担当箇所に記載されている知識の把握のみならず、その周辺領域に関する知識も把握した上でのプレゼンテーションとする。プレゼン用レジュメ（20%）については、プレゼンテーションを行うにあたり、その内容がしっかりと要約できているかを評価基準とする。実技試験（10%）については、正しいウェイトトレーニングの方法について理解した上で実践できているかを評価基準とする。

授 業 の 概 要

トレーニングに関するテキストを輪読していく（①担当箇所(担当者)の決定、②担当箇所を精読、③要約、④レジュメ作成、⑤報告、⑥ディスカッション)。なお、②～④の行程については、担当者が事前（ゼミ時間外）に準備するものとする。また、テキストの内容で、本学にて実習形式にて実際に行えるものについては、積極的に行っていく。

教 科 書 ・ 参 考 書

教科書：特に指定しない
参考書：ウィダー・トレーニングバイブル（ウィダー社）

授業外における学修及び学生に期待すること

本ゼミで行う内容に興味を持ち積極的に参加してほしい。そのためには、ゼミ時間外に、ゼミで行った内容について復習を通して理解すると共に、ゼミで行った内容の周辺領域の知識について予習する等の取り組みを行ってほしい。
また、知識の修得や理解の以前に、“ヒト”としてではなく“人”として、そして大学生としての最低限のマナーをもって教員やゼミ生と接してほしい。メリハリ（学ぶときは学び、遊ぶときは遊ぶ）を大切に！

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予習・復習
1	オリエンテーション	自己紹介、ゼミの進め方について、輪読担当箇所の決定	担当者:担当箇所(ウェイトトレーニングの科学(1)の精読・要約・レジュメ作成) 担当者以外:ウェイトトレーニングの科学(1)の精読
2	輪読 (1)	ウェイトトレーニングの科学(1)「負荷の質」	担当者:担当箇所(ウェイトトレーニングの科学(2)の精読・要約・レジュメ作成) 担当者以外:ウェイトトレーニングの科学(2)の精読
3	輪読 (2)	ウェイトトレーニングの科学 (2)「トレーニングの量」	担当者:担当箇所(ウェイトトレーニングの科学(3)の精読・要約・レジュメ作成) 担当者以外:ウェイトトレーニングの科学(3)の精読
4	輪読 (3)	ウェイトトレーニングの科学 (3)「トレーニングと休養」	ウェイトトレーニングの科学(1)～(3)の復習 新体力テストの測定方法について (予習)
5	測定 (1)	新体力測定 (測定)	課題レポート (新体力測定について)
6	測定評価 (1)	新体力測定 (評価)	担当者:担当箇所 (子供のためのトレーニング(1)の精読・要約・レジュメ作成) 担当者以外:子供のためのトレーニング(1)の精読
7	輪読 (4)	子供のためのトレーニング(1)「いつからトレーニングをはじめたらよいか?」	担当者:担当箇所 (子供のためのトレーニング(2)の精読・要約・レジュメ作成) 担当者以外:子供のためのトレーニング(2)の精読
8	輪読 (5)	子供のためのトレーニング(2)「子供とスポーツ」	担当者:担当箇所 (子供のためのトレーニング(3)の精読・要約・レジュメ作成) 担当者以外:子供のためのトレーニング(3)の精読
9	輪読 (6)	子供のためのトレーニング(3)「子供のアスリートの怪我」	担当者:担当箇所 (子供のためのトレーニング(4)の精読・要約・レジュメ作成) 担当者以外:子供のためのトレーニング(4)の精読
10	輪読 (7)	子供のためのトレーニング(4)「子供の怪我の特徴」	子供のためのトレーニング(1)～(4)の復習 最大酸素摂取量の推定方法について (予習)
11	測定 (2)	最大酸素摂取量の推定 (測定)	課題レポート (歳大酸素摂取量の推定について)
12	測定評価 (2)	最大酸素摂取量の推定 (評価)	担当者:担当箇所 (スポーツマンの栄養(1)の精読・要約・レジュメ作成) 担当者以外:スポーツマンの栄養(1)の精読
13	輪読 (8)	スポーツマンの栄養(1)「スポーツマンの栄養」	担当者:担当箇所 (スポーツマンの栄養(2)の精読・要約・レジュメ作成) 担当者以外:スポーツマンの栄養(2)の精読
14	輪読 (9)	スポーツマンの栄養(2)「エネルギー」	担当者:担当箇所 (スポーツマンの栄養(3)の精読・要約・レジュメ作成) 担当者以外:スポーツマンの栄養(3)の精読
15	輪読 (10)	スポーツマンの栄養(3)「栄養素」	スポーツマンの栄養(1)～(3)の復習

授業科目	専門演習ＩＡ			担当教員	小島　大輔		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	2年・前期	必修・選択	必修

授 業 の ね ら い

本演習では、移動巡検を通して観光を通した地域の理解に努め、地域における観光の意味・役割について考えることで、観光学および地域調査の専門的知識を習得し、地域における観光の実情を見出す視野を身につける。

	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標	評価手段・方法	評価比率
関心・意欲・態度	移動巡検の円滑な実施（準備・運営）に寄与できる。	授業への参加度 受講者の発表 課題レポート 期末レポート	5% 10% 5% 5%
思考・判断	二次資料や地誌書に基づき、地域における観光の意味・役割を指摘できる。	受講者の発表 課題レポート	15% 15%
技能・表現			
知識・理解	現地で得た知識に基づき、地域の実情と観光を関連付けて述べることができる。	受講者の発表 期末レポート	15% 30%
出　席			受験要件
合　計			100%

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

・すべての評価手段・方法について、実施計画通りに課題を遂行することができたかを評価する。
・授業への参加度は、輪読および巡検成果の発表における討論への参加度合を評価する。
・受講者の発表は、巡検、輪読および巡検成果の発表資料について、様式の正しさおよび取り上げた情報の適切さなどを評価する。
・課題レポートについては、巡検資料の様式の正しさ、内容の適切さおよび引用方法の正しさなどを評価する。
・期末レポートは、様式の正しさ、現地で得た知識の具体性および観光との関連付けの独自性などを評価する。

授 業 の 概 要

巡検とは、学問的に興味深い地点に人々を案内し、現地の知識を有する者が説明を行う現地講義である。移動巡検の場合は、いくつかの地点を巡り、現地の知識を再確認することが主な目的とされる。

移動巡検は、以下の手順で実施する。まず、巡検について学び、移動巡検先を選定する。次に、履修生で各巡検先の地誌の輪読（レジメ作成と内容紹介）を行う。そして、巡検資料を作成し、移動巡検を実施する。最後に、移動巡検の成果をまとめ、発表する。

教 科 書 ・ 参 考 書

教科書：特に指定しない。
参考書：授業時に紹介するので、詳細を知りたい場合や知識を深めたい場合は参照のこと。

授業外における学修及び学生に期待すること

※本演習選択者は、「長期インターンシップ」も併せて履修すること。
※本演習選択者は、観光ビジネス、地域デザイン、言語・多文化、スポーツツーリズムのうち、いずれのコースも履修してよい。

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	イントロダクション	専門演習のプロセスを理解し、目標を共有する。	復習：候補地域の下調べ
2	移動巡検先の決定	移動巡検のテーマおよび巡検先を決定する。	予習：候補地域の下調べ
3	巡検先地誌の選定	輪読する地誌の選書および内容紹介の担当を決める。	予習：地誌書の選書
4	巡検先地誌の輪読①	選定した巡検先地誌を輪読する。	予習：発表資料の作成、地誌書の通読
5	巡検先地誌の輪読②	選定した巡検先地誌を輪読する。	予習：発表資料の作成、地誌書の通読
6	巡検先地誌の輪読③	選定した巡検先地誌を輪読する。	予習：発表資料の作成、地誌書の通読
7	巡検担当の決定	巡検実施時における解説担当を決め、巡検資料作成方法を学ぶ。	予習：関心のあるテーマの整理
8	巡検資料の作成①	解説担当箇所について巡検資料を作成する。	復習：資料の収集
9	巡検資料の作成②	解説担当箇所について巡検資料を作成する。	復習：資料の収集
10	巡検資料の作成③	巡検資料をまとめて冊子を作成する。	予習：資料の体裁確認
11	移動巡検の実施	選定したテーマで移動巡検を実施する。	予習：プレゼン資料の確認
12	移動巡検の実施	選定したテーマで移動巡検を実施する。	復習：調査ノートの整理
13	レポート作成方法	移動巡検のレポート作成方法について学ぶ。	予習：収集資料のまとめ
14	発表資料の作成	巡検成果に関する発表資料を作成する。	復習：発表資料の作成
15	巡検成果の発表	巡検成果を発表する。	復習：期末レポートの作成

授業科目	専門演習ＩＡ			担当教員	嶋内　麻佐子		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	2年・前期	必修・選択	必修

授 業 の ね ら い

本演習では、日常生活のなかで飲まれている日本茶の基礎知識を知り、色々なシーンでのおもてなし〈実践〉ができる力を養う。ここでは実際に茶葉に触れ、試飲することでお茶のイメージを明確にする。また、和の文化や精神に触れながら、もてなしの基礎知識を身につけることができる。

	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標	評価手段・方法	評価比率
関心・意欲 ・態度	茶系飲料の利用法について情報を集めて、ＴＰＯにあう茶の淹れ方について批評することができる。	・課題レポート ・受講者の発表（プレゼンテーション） ・授業態度・授業への参加態度	15% 10% 15%
思考・判断	茶葉の種類の特徴を知り、種類ごとの味の違いを述べることができる。	・ペーパーワーク	10%
技能・表現	それぞれのお茶〈玉露・煎茶・ほうじ茶・ペットボトルの茶・インスタントの茶など〉の特長を活かしたもてなしを企画できる。	・演習	20%
知識・理解	日本茶の基礎知識を学び、それによる接客内容の違いについて説明できる。	・ペーパーワーク ・課題レポート	10% 20%
出　　席			受験要件
合　　計			100%

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

・ペーパーワークを 20%、演習を 20%とする。課題レポートは、第 6 回目・10 回目にそれまでの授業内容に関する課題を問う。演習課題では、茶葉の種類にあう美味しい淹れ方ができたかについて試飲して判断する。
・もてなしの基本概念や方法についての理解を前提に、独自性のある茶会の企画力を身につけているかを評価する。
・企画課題レポート第 10 回と 14 回の課題レポートについては、理論的かつ独自のアイディアが組み込まれているかを評価する。
・授業態度・授業への参加については、発表の内容と討論への参加度合いを評価する。

授 業 の 概 要

・参考書にそって日本茶の基礎知識を学ぶ。茶葉を収集し、オリジナルのお茶を作る。
・おもてなしを実践するために、美味しいお茶の淹れ方（茶葉の選択・温度・水・茶器）を習得する。
・日常生活の中でのおもてなしについて、斬新なアイディアを考え、ゼミ内で発表する。
・日本茶と町おこしに関する事例を研究し、ゼミ内で報告する。

教 科 書 ・ 参 考 書

教科書：指定しない。資料を適宜配布する。
参考書：『日本茶のすべてが分かる本』ＮＰＯ法人日本茶インストラクター協会 2008

授業外における学修及び学生に期待すること

・専門演習での取り組みを含め、学外で実施されている茶会に積極的に参加する。
・茶会の軸である人と人、人と物に対する感性をしつかり磨く。
・学内の行事は勿論インターンシップに参加して、社会人基礎力身につける。
・本演習を選択するものは「茶道文化」を履修することが望ましい。

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	導入	日本における「茶」の始まりと展開について述べる。専門演習Ⅰの進め方やゼミ活動について説明する。	シラバスを読んでくる。
2	日本茶の基礎知識（1）	お茶の歴史と文化について（日本のお茶の起源）説明する。	緑茶についてインターネットで検索し、その内容をまとめてみる。
3	日本茶の基礎知識〈2〉	茶の種類と入れ方の違いを学ぶ。実際に茶器を使い基本的な煎茶の入れ方を実践し、色・香・味について比較する。	茶器について調べる。
4	日本茶の基礎知識（3）	実践：おいしいお茶を淹れる。（玉露・番茶）	日本茶の種類を調べる。
5	日本茶の基礎知識（4）	ペットボトルの茶と缶入りの茶を試飲し、色・香・味の比較をする。また、どのお茶が売れているのか、その理由を調べる。	各自お気に入りのペットボトルの茶と缶入りの茶を捜し、持参する。
6	日本茶の基礎知識（5）	ティーバック・インスタント茶等の茶系飲料が伸びている背景を探る。	茶系飲料についてインターネットで検索し、その内容を分析する。
7	日本茶のおもてなし（1）	丁寧な日本茶でのおもてなしについて考える。	もてなしについてアイディアを練る。
8	日本茶のおもてなし（2）	ビジネスでの日本茶のおもてなしについて考える。	もてなしについてアイディアを練る。
9	日本茶のおもてなし（3）	カジュアルでの日本茶のおもてなしについて企画・準備する。	もてなしについて企画する。
10	日本茶のおもてなし（4）	自分流のおもてなしについて報告する。	資料を作成し報告する。
11	お茶と観光（1）	日本茶で町おこしの事例を紹介（藤枝市）する。	インターネットで藤枝市の町おこしを検索し、その内容をまとめる。
12	お茶と観光（2）	日本茶で町おこしの事例を紹介（松江）する。	インターネットで松江市の町おこしを検索し、その内容をまとめる。
13	研究と発表（1）	日本茶で町おこしについて研究する。	レポート作成と発表の準備を行う。
14	研究と発表（2）	日本茶で町おこしについて発表する。	レポート作成と発表の準備を行う。
15	まとめ	前期のまとめを行う。	これまでの講義資料を整理する。

授業科目	専門演習ＩＡ			担当教員	城前　奈美		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	2年・前期	必修・選択	必修

授 業 の ね ら い

テーマ：国家資格『国内旅行業務取扱管理者』試験の「旅行業法」「約款」をマスターする。
国内旅行業務取扱管理者試験合格を目指したゼミとする。
特に旅行業法、約款に力を入れる。国家試験自体は9月上旬

	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標	評価手段・方法	評価比率
関心・意欲・態度	旅行業及び関連業界への関心が高まり、かつ自らの旅行意欲が高まる。かつ積極的にゼミ以外でも仲間ともに自主的な勉強会ができる。さらに下級生の指導ができる。	グループディスカッション	20%
思考・判断	旅行業としてやってはいけない行為は何かが判断できる。客のニーズにこたえた旅行業の在り方を旅行業法と共に考えることができる。	グループディスカッション	20%
技能・表現	最終的な目標である国内旅行業務取扱管理者試験のうちの「旅行業法」と「約款」で60点以上取得できる。	模擬試験	30%
知識・理解	旅行業のみならず宿泊業、運輸交通業かなり専門的な分野までその法規及び実務を理解する。	模擬試験	30%
出　　席			受験要件
合　　計			100%

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

模擬試験は3回受験する。

授　業　の　概　要

内容としては、1年次から開講されている「旅行業法・約款」の授業で学習したものである。
本専門演習では国内旅行業務取扱管理者試験の合格をめざし、問題を解きながら学生主体で進めていく。形式としては勉強会を考えてほしい。

教　科　書　・　参　考　書

1.旅行業実務シリーズ　旅行業法・旅行業約款　ジェイティービー能力開発　2,600円
2.旅行業務取扱管理者テーマ別問題集　エフィカス　2,310円
3.配布プリント

授業外における学修及び学生に期待すること

欠席や遅刻をする場合は、必ず事前に連絡をすること。また、自主的に積極的に協力して学んでいくこと。
単位を既に取得していても、「旅行業法・約款」の授業には出席して欲しい。また、火曜6限目の特別講座に出来るだけ出席すること。
夏休みには模擬試験3回および4日間の集中ゼミを行なうので参加すること。模試費用は5.500円
なお、国家試験を受験しない者には特段の理由がない限り、単位を出さないので注意してください。
※本演習を選択するものは次のコースを履修することが望ましい。観光ビジネスコース、地域デザインコース

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	オリエンテーション	前期の進め方を説明する。	配布プリントの予習、復習
2	旅行業法	法の目的、旅行業の定義	配布プリントの予習、復習
3	旅行業法	登録制度、登録拒否、登録変更	配布プリントの予習、復習
4	旅行業法	営業保証金制度、旅行業務取扱管理者	配布プリントの予習、復習
5	旅行業法	料金掲示、旅行業約款、取引条件説明、書面交付	配布プリントの予習、復習
6	旅行業法	外務員、広告	配布プリントの予習、復習
7	旅行業法	標識、企画旅行の措置、旅程管理業務	配布プリントの予習、復習
8	旅行業法	禁止行為、代理業	配布プリントの予習、復習
9	旅行業法	業務改善命令、旅行業協会	配布プリントの予習、復習
10	旅行業約款	募集型企画旅行の部　第 1 条から第 10 条	配布プリントの予習、復習
11	旅行業約款	募集型企画旅行の部　第 13 条から第 19 条	配布プリントの予習、復習
12	旅行業約款	募集型企画旅行の部　第 21 条から第 26 条	配布プリントの予習、復習
13	旅行業約款	募集型企画旅行の部　第 27 条から第 30 条	配布プリントの予習、復習
14	旅行業約款	受注型企画旅行の部、手配旅行契約の部、旅行相談の部	配布プリントの予習、復習
15	旅行業約款	運送約款、宿泊約款	配布プリントの予習、復習

授業科目	**専門演習ＩＡ**			担当教員	田井　健太郎		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	2年・前期	必修・選択	必修

授 業 の ね ら い

本ゼミは、身体、体育、スポーツに関する専門的な思考の理解を目的とする。授業の目標は、知識の一覧を理解することに留まらず、身体、体育、スポーツについての歴史的理解、多様な見方の理解、そして現状と未来の展望についての意見を持つことである。

	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標	評価手段・方法	評価比率
関心・意欲 ・態度			
思考・判断	身体、体育、スポーツの諸問題を体系的に類別し、討議できる。	・受講者の発表 ・授業案の作成	10% 10%
技能・表現	課題に対し、論理的に表現することができる。	・受講者の発表 ・授業案の作成 ・全体討議	5% 5% 10%
知識・理解	身体、体育、スポーツについての歴史、多様な見方を説明できる。	・受講者の発表 ・授業案の作成 ・全体討議	20% 20% 20%
出　　席			受験要件
合　　計			100%

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

・授業内小テストでは、教員採用試験の過去問より抜粋した問題に対して進度に応じた理解がなされているかを評価する。
・プレゼンテーション（研究テーマ）では、各自設定したテーマについて適切な先行研究、資料を選択、読解した上で、レジュメを作成し、プレゼンテーションが行えているかと評価する。
・プレゼンテーション（実技指導）では、各自設定した種目、対象について適切な課題、教材を選択し、指導案を作成した上で、安全に指導を行えているかを評価する。
・全体討議（研究テーマ、実技指導）では、プレゼンテーションまたは実技指導を通して、内容を適切に理解しているか、評価点、改善点は何かについて意見が行えるかについて評価する。

授 業 の 概 要

体育学、スポーツ学の中でも、人文科学の研究方法論について、各自テーマを設定し、順にプレゼンテーションを行い、全体討議をする形式で演習を行っていく。また、体育・スポーツの指導演習を行う。教員希望者は模擬授業、スポーツ指導者希望者はスポーツ指導を行う。

教 科 書 ・ 参 考 書

教科書：『中学校学習指導要領解説　保健体育』『高等学校学習指導要領解説　保健体育』
『各県教員採用試験過去問題集　保健体育』『各県教員採用試験参考書　保健体育』
『教員採用試験ステップアップ問題集』
参考書：『現代スポーツ評論』創文企画

授業外における学修及び学生に期待すること

本ゼミでは、教員（保健体育）志望の学生の履修を推奨します。体育科教育学、体育・スポーツ哲学（原理）、体育・スポーツ史、武道論など人文科学研究領域の内容を中心に扱います。
※本演習を選択するものは次のコースを履修することが望ましい
スポーツツーリズム

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	オリエンテーション	自己紹介、ゼミの進め方について説明、テキストの選定と輪読担当箇所の決定	
2	教員採用試験について	教員採用試験過去問　発表準備	・指定された問題集、参考書を用意
3	授業内小テスト	教員採用試験過去問	・指定された範囲について予習しておく
4	プレゼンテーション①	テーマを設定し担当者が発表	・指定された論考、論文を読解し注釈を用意する ・担当者はプレゼン用意
5	実技指導研究①	種目を設定し担当者が模擬授業を行う	・設定された種目についてルール、学習指導要領解説を確認しておく ・担当者は指導案を作成する
6	プレゼンテーション②	テーマを設定し担当者が発表	・指定された論考、論文を読解し注釈を用意する ・担当者はプレゼン用意
7	実技指導研究②	種目を設定し担当者が模擬授業を行う	・設定された種目についてルール、学習指導要領解説を確認しておく ・担当者は指導案を作成する
8	プレゼンテーション③	テーマを設定し担当者が発表	・指定された論考、論文を読解し注釈を用意する ・担当者はプレゼン用意
9	授業内小テスト	教員採用試験過去問	・指定された範囲について予習しておく
10	プレゼンテーション④	テーマを設定し担当者が発表	・指定された論考、論文を読解し注釈を用意する ・担当者はプレゼン用意
11	プレゼンテーション⑤	テーマを設定し担当者が発表	・指定された論考、論文を読解し注釈を用意する ・担当者はプレゼン用意
12	授業内小テスト	教員採用試験過去問	・指定された範囲について予習しておく
13	実技指導研究③	種目を設定し担当者が模擬授業を行う	・設定された種目についてルール、学習指導要領解説を確認しておく ・担当者は指導案を作成する
14	授業内小テスト	教員採用試験過去問	・指定された範囲について予習しておく
15	まとめ	前期授業のまとめと夏季休暇の課題	

授業科目	専門演習ＩＡ			担当教員	滝　知則		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	2年・前期	必修・選択	必修

授　業　の　ね　ら　い

佐世保･西九州地区の観光地を2つの言葉でガイドする

観光学の基本的な理解と、佐世保と西九州の観光地に関わる国際交流史と文化の学習に基づいて、所定の観光地の特徴を説明できるようになる。さらにこの説明を、観光者のニーズに応じて行うことと、複数の言語で行うことができるようになる。これらを通じ、観光地の魅力を理解するとともにコミュニケーション能力を伸ばすことをめざす。

	学　生　の　授　業　に　お　け　る　到　達　目　標	評価手段・方法	評価比率
関心・意欲・態度	観光対象に関わる歴史と文化に関心を持ち、最低一つの調査課題を設定し、自ら調査することができる。	予習・復習課題の提出 演習への参加度 フィールドワーク参加	10% 10% 10%
思考・判断	観光対象について自分が調べたことや感じたことを、論理的な順序に配列し、観光対象の説明に盛り込むことができる。	期末レポート	30%
技能・表現	MSワード、エクセル、パワーポイントなどを使用し、観光者（聞き手)に分かりやすい形で観光対象の情報を提供できる。	ゼミ内発表会でのプレゼン	10%
知識・理解	観光学の基本的な概念の理解と、観光対象の国際交流史ならびに文化の理解を、当該観光地の説明に活用できる。	期末レポート	30%
出　席			受験要件
合　計			100%

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

1.授業に積極的に参加しているか（予習・復習10%、演習への参加10%、フィールドワークへの参加10%）
2.学習内容を分かりやすい形でプレゼンテーションできるか（10%）
3.期末レポート（思考・判断30%、知識・理解30%）

授　業　の　概　要

1.フィールドワークの対象地を決める。この科目では、佐世保地区ないし長崎県北地区を対象とする予定。
2.事前調査、フィールドワークの実施（ボランティアガイドの説明を受ける)、調査結果の分析、観光対象の説明（プレゼンテーション)。
3.演習は日本語で行うが、プレゼンは２か国語で行う。

教　科　書　・　参　考　書

教科書：特に指定しない。各回の演習に先立ち、必要な資料を配付するか、調査対象を指示する。
参考書：長崎国際大学人間社会学部国際観光学科（2011）観光の地平，学文社.

授業外における学修及び学生に期待すること

1.学習対象となる観光地の歴史と文化について、日頃から情報を集めておくこと。
2.フィールドワークへの参加は必須とする。交通費等の負担が発生する。
3.コース選択の指定はしないが、内容的には観光マネジメントコースまたはグローバルツーリズムコースが望ましい。
4.当ゼミの履修者には、長期インターンシップの履修を強く勧める。
5.通訳案内士試験勉強会（カリキュラム外）への参加も勧める。

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予習・復習
1	イントロダクション	この科目の目的と目標、ならびに学習スケジュールを確認する。	(予習)シラバスの内容を理解し、質問に答えられるようにしておくこと。 (復習)指定された資料を収集し、次回に持参すること。
2	事前準備 1	対象観光地の観光情報を共有する（パンフレット、ネット上の観光協会等の情報、大学図書館など）	(予習)自分で集めた情報ならびに配布された情報を読み、内容を理解しておく。 (復習)観光対象に関わる所定の事項の説明を箇条書きのリストにし、次回提出する。
3	事前準備 2	①対象観光地の歴史、②対象観光地へのアクセスについての調査結果の報告	
4	事前準備 3	観光対象（食べ物、みやげなど）に関わる歴史や文化についての調査結果の報告	
5	事前準備 4	フィールドワークのスケジュール決定	(予習)演習で提示できるようにスケジュール案を作成する（復習）スケジュール通りに実施するための確認をする。
6	フィールドワーク実施	フィールドワークの実施	(復習）次回での報告に向け、調査メモを整理し、印刷する。写真・動画は報告に使うものを絞り込んでおく。
7	フィールドワーク ふりかえり 1	フィールドワークの報告（速報）	(予習）5 分程度の報告メモを作成・印刷する。(復習）各人の報告のよかったところをメモにまとめ、次回提出する。
8	文献講読 1	対象観光地の国際交流史（1）	(予習）所定のテキストの要約 (復習)「速報」に追加する内容をまとめたメモを作成し、次回で提出する。
9	文献講読 2	対象観光地の国際交流史（2）	
10	文献講読 3	対象観光地の理解に関わる観光学の概念（1）	
11	文献講読 4	当該観光地の理解に関わる観光学の概念（2）	
12	フィールドワーク ふりかえり 2	後半の学習内容を「速報」に反映させたプレゼンテーションを作成する。「分かりやすさ」に留意して相互に検討する。	(予習）プレゼンの練習 (復習)見つかった改善点を考慮してプレゼン資料を修正し、次回で提示する。
13	フィールドワーク ふりかえり 3		
14	ゼミ内発表会	各ゼミ生によるプレゼンテーション	(予習）プレゼンの練習 (復習)①プレゼンの評価、②目標到達状況の確認
15	全体のまとめ	①この科目で学習した内容のふりかえり、②所期の目標に到達したか、③次年度に向けての改善点、④次の調査対象地の検討、⑤期末レポートの指示	(予習)次の調査対象の候補地を考えておく。

授業科目	専門演習ＩＡ			担当教員	田中　誠		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	2年・前期	必修・選択	必修

授 業 の ね ら い

・異文化を理解し、国際社会に貢献するための基礎的なコミュニケーション能力を発揮することができる。
・身近な内容に関して、英語で表現することができるようになり、多文化共生社会において交流することができる。
・特定のテーマに関する学びにより知識を深め、さまざま問題解決に役立つ思考や判断をすることができる。
・TOEIC の基礎的な内容を理解することができ、それを実際のコミュニケーションに活かすことができる。

	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標	評価手段・方法	評価比率
関心・意欲 ・態度	日々学修に取り組む習慣の重要性を理解し、指示された事項に関しては概ね実践することができる。	・課題 ・授業態度・授業への参加度	10% 10%
思考・判断	基礎レベルの問題の発見及び､解決のための思考･判断能力を身につけ、その内容を発表することができる。	・受講者の発表	30%
技能・表現	授業で取り扱う身近な事項に関して、英語で表現することができる。	・受講者の発表	10%
知識・理解	(1)基礎的なコミュニケーションのために必要な知識を理解し、コミュニケーションがうまくいかない場合は、なぜうまくいかないのかを説明することができる。 (2)TOEIC 450 点レベル以上。	・受講者の発表 ・テスト	20% 20%
出　　席			受験要件
合　　計			100%

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

１．毎回、英文を音読書写する課題を提出。量が多ければ多いほど、ポイントが高くなる。
２．14 回目に 30 分のテストを実施。テスト内容は TOEIC の形式。
３．ただ座っているだけでは、授業への参加にはならない。授業での積極的な発言・発表等にはプラスのポイントを与える。
４．担当箇所の発表内容を評価の対象とする。準備不足の学生は減点となる。

授　業　の　概　要

・英語と日本語の実際の場面で使用される様々な表現を学ぶ。
・TOEIC の基礎を学ぶ。
・決められたテーマに関して、ディスカッションをし、理解を深める。
・コースの指定は特にしない。

教　科　書　・　参　考　書

教科書：プリント配布。
参考書：『新 TOEIC TEST 出る単特急 金のフレーズ 』 TEX 加藤（著)、朝日新聞出版。
『新 TOEIC TEST 入門特急 とれる 600 点』 TEX 加藤（著)、朝日新聞出版。

授業外における学修及び学生に期待すること

コミュニケーション能力向上のために自ら学ぶという努力をしてもらいたい。この演習は、自ら学ぼうとする学生向けの内容です。英語と日本語双方の言語に関して、コミュニケーション能力の向上を目指し、ハイレベルな内容を取り扱うので、英語力と日本語力の両方がないと授業についていくのは難しいでしょう。毎回、課題も出しますので、一生懸命学ぼうと努力する必要があるということを理解して履修して下さい。また、長期インターンシップに参加する学生を歓迎します。

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予習・復習
1	オリエンテーション	ゼミがスムーズに運営できるように、オリエンテーションを行う。英語の習得方法、本専門演習の意義などについて	予習：TOEIC の HP で最新情報を確認 復習：音読筆写、ポートフォリオ
2	アイデア商品	TOEIC 問題、アイデア商品に関する表現、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 1-10 について調べる 復習：1-10 音読筆写、ポートフォリオ
3	レストラン	TOEIC 問題、レストランに関する表現、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 11-20 について調べる 復習：11-20 音読筆写、ポートフォリオ
4	仕事と給料	TOEIC 問題、仕事と給料に関する表現、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 21-30 について調べる 復習：21-30 音読筆写、ポートフォリオ
5	自分の意見を言う①	TOEIC 問題、効果的なグループディスカッションについて学ぶ①。（レベル１）	予習：TOEIC 31-40 について調べる 復習：31-40 音読筆写、ポートフォリオ
6	時事問題	TOEIC 問題、時事問題に関する表現、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 41-50 について調べる 復習：41-50 音読筆写、ポートフォリオ
7	格闘技	TOEIC 問題、格闘技に関する表現、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 51-60 について調べる 復習：51-60 音読筆写、ポートフォリオ
8	免許	TOEIC 問題、免許に関する表現、翻訳研究、ディスカッション	予習 TOEIC 61-70 について調べる 復習：61-70 音読筆写、ポートフォリオ
9	道を聞く	TOEIC 問題、道を聞くことに関する表現、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 71-80 について調べる 復習：71-80 音読筆写、ポートフォリオ
10	道に迷う	TOEIC 問題、道に迷ったときの表現、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 81-90 について調べる 復習：81-90 音読筆写、ポートフォリオ
11	自分の意見を言う②	TOEIC 問題、効果的なグループディスカッションについて学ぶ②（レベル１）	予習：TOEIC 91-100 について調べる 復習：91-100 音読筆写、ポートフォリオ
12	訪問	TOEIC 問題、訪問する際の表現、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 101-110 について調べる 復習：101-110 音読筆写、ポートフォリオ
13	ガソリンスタンド	TOEIC 問題、ガソリンスタンドに関する表現、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 111-120 について調べる 復習：111-120 音読筆写、ポートフォリオ
14	機械操作、テスト	テスト、TOEIC 問題、機械操作に関する表現	予習：試験の準備学習 復習：音読筆写、ポートフォリオ
15	まとめ	TOEIC 問題、翻訳事例研究、ディスカッション、休暇中の学びについて	予習：TOEIC 121-130 について調べる 復習：121-130 音読筆写、振り返り、ポートフォリオ

授業科目	専門演習ＩＡ			担当教員	谷口　佳菜子		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	2年・前期	必修・選択	必修

授 業 の ね ら い

議論やグループワークを通じて、ビジネスやまちづくりなどあらゆる場面で求められる創造力を養う。また、課題を実践する過程でコミュニケーション能力やチームで働く力を身につける。

	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
関心・意欲・態度	課題について積極的に取り組むことができる。	授業態度・授業への参加度 レポート① レポート②	10% 5% 5%
思考・判断	従来の常識や発想を転換して、新しい発想や解決策を提案することができる。	レポート② プレゼンテーション	10% 20%
技能・表現	パワーポイント等を用いてわかりやすい発表をすることができる。	プレゼンテーション	10%
知識・理解	発想の転換や斬新なアイデアが成功につながった企業の一例を説明することができる。 基礎的なマーケティングの用語を理解し、それを用いて実践した内容を説明することができる。	レポート① レポート②	20% 20%
出　席			受験要件
合　計			100%

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

・受講者の発表および課題レポート（報告書を含む）については、授業内で指示する。
・授業態度・参加については、討論やグループワークへの参加度合を評価する。

授 業 の 概 要

テーマ：発想の転換と斬新なアイデアの創造
本演習では、創造力を発揮し、指定した課題の実践を行う。まず専門領域の基礎的知識を学ぶ。各自が関心のある企業について調査を行い、調査結果をレポート（レポート①）にまとめ報告する。報告された内容について議論を行う。
また、グループで指定された課題（「価値」を生み出す）を実践する。どのように実践したかについて、各グループに発表してもらう。最後に、本演習のまとめとして議論を行い、各自レポートを作成し提出する（レポート②）。

教 科 書 ・ 参 考 書

・教科書は特に定めない。
・参考書：石井淳蔵ほか（2013）『ゼミナールマーケティング入門（第2版）』日本経済新聞社、ケラー, K. L.（2000）『戦略的ブランド・マネジメント』東急エージェンシー、コトラー, P・ケラー, K. L.（2014）『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント（第12版）』丸善出版株式会社。その他、必要に応じて授業中に紹介する。

授業外における学修及び学生に期待すること

・議論や課題の実践には主体的かつ積極的に取り組んでほしい。
・本演習を選択する者はどのコースに所属してもよい。
※「長期インターンシップ」を履修すること。

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予習・復習
1	導入	ゼミの進め方やテーマについてオリエンテーションを行う	配布資料の精読
2	基礎学習（1）	マーケティングに関する文献や資料を読み、理解を深める	専門用語の理解 配布資料の精読
3	基礎学習（2）	マーケティングに関する文献や資料を読み、理解を深める	専門用語の理解 配布資料の精読
4	基礎学習（3）	マーケティングに関する文献や資料を読み、理解を深める	専門用語の理解 配布資料の精読
5	基礎学習（4）	マーケティングに関する文献や資料を読み、理解を深める	専門用語の理解 配布資料の精読
6	事例研究（1）	発想の転換や斬新なアイデアが成功につながった企業の事例を紹介する	配布資料の精読
7	事例研究（2）	関心のある企業について資料を収集し、斬新なアイデアが成功へつながった事例を探し出して、内容をまとめる	資料収集 レポート①の作成
8	事例研究（3）	関心のある企業について資料を収集し、斬新なアイデアが成功へつながった事例を探し出して、内容をまとめる	資料収集 レポート①の作成
9	事例研究（4）	調査した企業の事例について発表する 調査結果について議論を行う	発表の準備 議論内容をまとめる
10	課題の実践（1）	課題（「価値」を生み出す）について説明を行う 議論を行い、計画を立案する	計画書の作成
11	課題の実践（2）	議論を行い、計画を立案する	計画書の作成 課題実践の準備
12	課題の実践（3）	計画を実践する	指定課題の実践
13	課題の実践（4）	計画を実践する	指定課題の実践 発表の準備
14	課題の実践（5）	実践した内容について発表する	発表の準備
15	まとめ	事例研究と課題の実践を通じて学んだことについて議論を行い、レポートを作成する	レポート②の作成

授業科目	**専門演習ＩＡ**			担当教員	中野　はるみ		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	2年・前期	必修・選択	必修

授 業 の ね ら い

本ゼミでは、「日本語を書く」トレーニングを演習していく。「書く」という表現は、さまざまな目的によって、異なる表現形式をもつ。日常生活で役に立つ実用的な「書く」行いをトレーニングするばあい、まず、実際に書かれている文章の良し悪しに気づき、どんな情報をどのような順序で書けば目的にそった文章になるかを考え、実際に書けるようになってトレーニングが終了となる。

何気なく書いていることばにメスを入れ、自分の使用する「日本語」にたいする鋭敏な眼を養っていく。これが学生時代に最も必要な「己に対する客観的視点」を持つ訓練になっていく。

	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標	評価手段・方法	評価比率
関心・意欲・態度	学修の基となる勉学活動に寄与できる。	授業態度・授業への参加	30%
思考・判断	自分や他人の日本語の誤りに気づき､修正することができる。	問題解答・発表・質問	30%
技能・表現			
知識・理解	日本語教員として自信をもって教壇に立つために、日本語の書きことばを原理的に把握できる。	課題	40%
出　　席			受験要件
合　　計			100%

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

授業中の態度・参加、問題解答、本人の発表、発表者への質問を 60%で評価する。また、課題作成で、残りの 40%を評価する。

授 業 の 概 要

履修者は、教科書にそって日本語を書くトレーニングに精をだし、問題を考え、実際に書けるようにならなくてはならない。本ゼミでは、演習における報告形式をとるので、履修者は順次、トレーニングする箇所の問題を解き、他の履修者からの質問に応えなければならない。報告者はそれに応えるために入念にテキストを研究・分析し、それなりの答えを準備しておく必要がある。

教 科 書 ・ 参 考 書

教科書：野田尚司・森口稔『日本語を書くトレーニング』ひつじ書房、2007。

授業外における学修及び学生に期待すること

本ゼミは、「**日本語教員養成課程**」を修了したいと考えている学生、もしくは、自分の使用する「ことば」に興味をもつ学生の受講を希望する。旺盛な知的好奇心とねばり強く物事を考える力を望む。

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	ゼミ報告とは	演習における報告を学び、ゼミ生の交流を行う。	トレーニング１の予習
2	トレーニング１ お知らせのメール	同窓会のメールを書きなおす　他	トレーニング１の予習
3	トレーニング１ お知らせのメール	長期欠席を先生へ知らせるメールを書く　他	トレーニング１の課題と トレーニング２の予習
4	トレーニング２ レストランのメニュー	わかりにくい「広島ラーメン紅葉」のメニュー　他	トレーニング２の予習
5	トレーニング２ レストランのメニュー	不親切な「アユタヤ」のメニュー　他	トレーニング２の課題と トレーニング３の予習
6	トレーニング３ 問い合わせのメール	英会話サークルに活動内容を問い合わせる　他	トレーニング３の予習
7	トレーニング３ 問い合わせのメール	ペンションに宿泊料金を問い合わせる　他	トレーニング３の課題と トレーニング４の予習
8	トレーニング４ 注意書きやサービス案内	北野大川ビルの中にある注意書き　他	トレーニング４の予習
9	トレーニング４ 注意書きやサービス案内	ホテルセレッソ仙台/サービス案内　他	トレーニング４の課題と トレーニング５の予習
10	トレーニング５ お願いのメール	先生に本の貸出しをお願いする安易なメール　他	トレーニング５の予習
11	トレーニング５ お願いのメール	お店の人に忘れ物を探してもらう　他	トレーニング５の課題と トレーニング６の予習
12	トレーニング６ お店やイベントの広告	情報誌に載せる「真っ赤なトマト」の広告　他	トレーニング６の予習
13	トレーニング６ お店屋イベントの広告	「料理旅館　浪の華」の広告　他	トレーニング６の課題と トレーニング７の予習
14	トレーニング７ わかりやすいマニュアル	ファックスの送りかたの説明　他	トレーニング７の予習
15	トレーニング７ わかりやすいマニュアル	エアコンの取扱説明書の目次　他	トレーニング７の課題と トレーニング８の予習

授業科目	**専門演習ＩＡ**			担当教員	原　哲弘		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	2年・前期	必修・選択	必修

授 業 の ね ら い

佐世保市と周辺市町村をつなぐ観光まちづくり計画

佐世保市をフィールドの中心に据え、【観光まちづくり】の専門的な知識を身につけ地域社会に対して実践的な演習を行います。「観光を媒体」として長期的な視点で考える時に経済的な効果だけでなく、社会的な効果として町並み景観の保全と生活の質の向上にも効果があります。さらに少子高齢化における福祉や児童の理解も必要となります。

そのような現実に即した中で**経済的効果と社会的効果**を考える能力や思考・判断する力を身に付け、さらに市民とのコミュニケーション能力も身に付けることを目標にします。この学習が「基礎学習」となり、さまざまな分野において【地域コーディネーター】として社会貢献できる人材になることを期待します。

	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標	評価手段・方法	評価比率
関心・意欲 ・態度	学内教育を中心として基礎的な手法を学び、あらゆる部分で討論ができるようになります。	・課題レポート ・受講者の発表 ・授業態度・参加度	20% 10% 10%
思考・判断	市町村の現場に赴き、自らの五感で感じることで、具体的な理解と創造力が身に付きます。言い換えると深く考えることで自らの個性を磨くことができます。	・課題レポート	20%
技能・表現	ワード、エクセル、パワーポイントなど基本的な情報処理ができる技術が身に付きます。また演習の随所に学内、学外を問わず発表の機会を設け自己表現力が身につきます。	・発表の表現力	10%
知識・理解	学校で学んだ観光に関する基本的な知識をもとに、地域学として、佐世保市、西海市、平戸市の歴史（市史）を学び、土地特有の特性を理解できます。	・課題レポート ・試験	10% 20%
出　　席			受験要件
合　　計			100%

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

評価の基準となるのは、グループ内でのコミュニケーション能力と役割分担に対する達成率を重視します。課題レポート（50%＝20%+20%+10%）は、フィールドワーク毎に随時行います。そして前期で実施した結果をまとめ全員の発表会（20%=10%+10%）を開催します。試験（20%）は9回目、12回目の授業で実施します。授業の出席率、授業態度（10%）、および学習実績（現地作業・レポート評価など）を参考としながら評価します。

授 業 の 概 要

市民を交えながら現状の「まち」をいかに再生するか現地調査し、市民との対話や仮店舗（情報＋物産・飲食）を実施することにより基本構想をつくり、具体的な**【観光まちづくり】**を体験する。さらに佐世保市と連携する周辺市町村を考え、隣接する平戸市では「空き家」を調査し観光活用方法を検討する。

また西海市では放置農園を着地型観光で考えたらどうなるか、などを検討し【観光ネットワーク】の取り組みを実習します。フィールドワークの場所は、平戸市的山大島、佐世保港、ハウステンボス、大宮町地区周辺の商店街、さいかい元気村などです。

教 科 書 ・ 参 考 書

教科書：なし

参考書：佐世保市、平戸市、西海市に関する資料は随時、プリント配布します。また書籍が必要となった場合は後日、指定します。

授業外における学修及び学生に期待すること

準備学習として佐世保市、平戸市、西海市を理解し把握すること、特に現地市町村の図書館に赴き、市史、観光動向、観光資源などを調べることが基本となります。また自宅でプロット図及び企画書などの表現力（文章表現、スケッチ、彩色、イラストレーター、フォトショップなど）を身につけ、社会人となった時、即戦力になれるように取り組むこと。更に理論による知識を身につけながら、それに基づく具体的な実践を交え現場で体感することが重要です。なお「社会人基礎力」を身に付けるために、長期インターンシップに参加することを推奨します。

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	全体の流れ	すべての内容とスケジュールの説明、それに将来に向けて期待すること、達成目標を説明する。	シラバスを十分読み込み、疑問があれば事前にまとめる。
2	現状把握①A	計画地に関する自然環境の把握　（佐世保市、平戸市、西海市など）	図書館など資料収集の方法を事前に経験する①
3	現状把握②A	計画地に関する人文・社会環境の把握	図書館など資料収集の方法を事前に経験する②
4	現地調査①A	現地に行き、自分の目で“まち”の雰囲気を把握する。	地図を用意し、現地で書き込みできるように準備する。
5	現地調査②A	現地に行き、あらかじめ決められたテーマ（地域の課題）によって各自が体感する。	事前にテーマを考え、現地で感じたことを復習する。
6	アンケート資料検討	市民に対してアンケート内容を検討し、実施する。（アンケート資料の作成）	疑問点を列記して、アンケート作成に備える。
7	アンケート配布	市民へのインタビューとアンケート配布	コミュニケーションの方法などを事前に練習する。
8	分析・評価①A	現地調査をもとに現状の分析と評価をする。	分析作業で役割分担を協議する①
9	分析・評価②A	回収したアンケートをもとに、問題点や地域資源を分析・評価する。　試験①	分析作業で役割分担を協議する②
10	コンセプトづくり①A	全体の調査資料をもとに、ブレストによるコンセプトづくり	チームごとにコンセプト内容を検討する。
11	コンセプトづくり②A	全体の調査資料をもとに、KJ 法、SWOT 分析によるコンセプトづくりを試みる。	KJ 法、SWOT 分析を事前に調べる。
12	コンセプトまとめ	これまでのコンセプトワークからキーワードを抽出して、コンセプトをまとめる。　試験②	チームごとのリーダーを事前協議の上、決定する。
13	市民との協議①A	コンセプトをもとに、市民と意見交換会を行う。	リーダーの下で、パワーポーントによる発表の準備をする。
14	コンセプトの修正	市民との対話の中から、具体的なコンセプトへと修正を加える。	意見交換から得られた情報をまとめる。
15	地図へのプロット①A	まち全体のプロット図・白地図作成による現状図と課題図をつくり、それに対する解決策を議論してまとめる。	チームの意見と市民の意見を織り交ぜる。

授業科目	専門演習ＩＡ			担当教員	三浦　知子		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	2年・前期	必修・選択	必修

授 業 の ね ら い

本演習では、総合旅行業務取扱管理者試験への合格を目指して、海外観光地理・歴史、海外旅行実務を中心に進めていく。合わせて国際社会に対応できるよう国・地域の幅広い知識を身に付けることも同時に目指している。総合旅行業務取扱管理者試験の範囲は膨大なので、学生自らの自発的な学びが必要である。

	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標	評価手段・方法	評価比率
関心・意欲・態度	世界の国・地域の地理・歴史を把握し、出入国手続、国際航空、ホテル等海外旅行実務の基礎的な流れを理解することができる。旅行パンフレットから海外事情を学ぶことができる。	・グループ課題 ・受講者の発表 ・授業態度・授業への参加度	20% 20% 10%
思考・判断	グローバルな視点から、国や地域の問題点や課題について考えることができる	・演習でのディスカッション	10%
技能・表現	データを分析し、文章を自分の言葉でまとめる力をつけ、自分の意見を論理的に発表できるようにする。	・受講者の発表	10%
知識・理解	海外旅行実務に必要な知識の理解を深め、外国との比較といった視点から、日本の特質や地域の個性を理解することができる。	・確認テスト	30%
出　席			受験要件
合　計			100%

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

・毎回前回分の復習テストを行い、理解度を確認する。また、12～14 回目に向けて、演習で学んだ内容をもとにレポートとしてまとめ、最終回に受講者の発表を行う。
・確認テストによって理解度を毎回測定する。授業態度・授業への参加・受講者の発表については、発表の内容と討論への参加度合を評価する。

授 業 の 概 要

本演習では、日本人の海外旅行マーケット、海外旅行実務知識、諸外国の歴史・地理について理解しながら、国際社会と国・地域間の人の移動である国際観光と海外旅行の基礎的な知識を学んでいきます。国や地域の概略を理解した上で、実際の海外旅行業務の上で留意すべき点、身に付けるべき知識を徹底的に学びます。

教 科 書 ・ 参 考 書

教科書：特に指定しない。随時プリントを配布します。
参考書：:『海外観光資源』『海外旅行実務』、『出入国法令と実務』（株）ジェイティービー能力開発

授業外における学修及び学生に期待すること

基礎的な知識をたくさん習得するために、反復練習を欠かさずに継続的な学習を進めてください。
総合旅行業務取扱管理者試験の合格を目指して進めますので、すでに国内旅行業務取扱管理者資格を取得している学生が優先となります。幅広い教養的知識として応用できるような主体的な参加を期待します。本演習を選択する学生は、どのコースを履修してもかまいませんが、試験合格のための補講や模擬試験も同時に受講が条件となります。

回	テ　ー　マ	授　業　の　内　容	予習・復習
1	世界の国・地域	世界の国・地域についての基礎的な知識を身に付ける。ヨーロッパ、アメリカ、アジア、オセアニア、アフリカのそれぞれの国・地域のうち、日本からの観光客が多い「主要国」を正確に覚えていく。講義と演習を行う。	世界の国・地域について復習し、主要国は地図上で把握できるようにする。
2	時差の理解	時差についての基礎的な知識を身に付ける。地域間の時差の把握、航空機での移動の際の所要時間の計算について理解する。講義と演習を行う。	時差の概念を理解し、地域間の時差、航空機の所要時間について復習する
3	世界の歴史と現代社会	世界史について概観し、現在の社会で問題となっている地域への理解を深める。外務省の海外安全ホームページの内容の読み方を学ぶ。講義と討論を行う。	現時点で国際紛争が起こっている場所について、その背景を復習する。
4	航空の知識①	日本に発着している世界の航空会社と世界の主たる空港について学ぶ。講義と演習を行う。	航空会社と国際空港について復習する
5	航空の知識②	日本に発着している世界の航空会社の航空運賃と等級や主たる航空機の種類と機内配置図等について学ぶ。講義と演習を行う。	航空会社と国際空港について復習する
6	国際航空運賃表の理解	国際航空時刻表として OAG がある。その具体的な見方を復習し、合わせて 4，5 回目で学んだ航空会社のコード、空港コードを読みこなす。講義と演習を行う。	国際航空時刻表の見方について復習する
7	列車時刻表の理解	欧州鉄道と世界の鉄道の時刻表として「ヨーロッパ鉄道時刻表」があるが、この時刻表の見方を習得し、世界の列車について、講義と演習を行う。	ヨーロッパ鉄道時刻表の見方、記号について復習する
8	ホテルの知識	ホテルの種類とその特徴。ホテルの等級、客室タイプ、料金建て、ホテル関連用語。それらを通じてホテル選択の基準がわかるようになる。講義と演習を行う。	ホテルの種類、特徴、東急、客室タイプ、料金、関連用語について復習する
9	国境と出入国手続	国境の概念と旅券の基礎的な知識を身に付ける。合わせて出入国法令など関連の法律とその内容についても理解し、出入国手続の流れを把握する。講義と演習を行う。	国、国境について復習し、出入国手続や日本の旅券について理解する。
10	感染症、査証	SARS や BSE などの感染症、予防注射や査証についての理解を深め、これらが必要となる国・地域についての理解を深める。講義と演習を行う。	感染症、予防接種、査証について復習し、現状を把握する。
11	税関手続きと税金①	税関手続、特に旅行者の免税の計算方法について正確に理解する。講義と演習を行う。	免税の計算方法について復習する。
12	税関手続きと税金②	税関手続、特に課税通関の計算方法について正確に理解する。講義と演習を行う。	課税通関の計算方法について復習する。
12	旅行パンフレットの理解①	実際の海外旅行ツアーパンフレットを用いて、これまで学んだことがどのようにパンフレットに反映されているかについて、グループに分かれて分析する。	旅行パンフレットを準備し、対象とする方面を選んで内容検討する。
13	旅行パンフレットの理解②	パンフレットの分析結果についてまとめ、プレゼンテーションの準備をする。	発表用の資料をまとめて発表の役割設定をする
14	国際社会と観光について	パンフレットから学んだ海外旅行に関する知識についてプレゼンテーションを行い、ゼミメンバーで内容を共有する。	発表内容を元に、各々が担当外の地域について理解を深める。
15	まとめ	前期に学んだ内容について、海外旅行実務の受験科目に合わせた復習を行う。弱点部分は夏休み中の強化に向けて把握しておく。	海外旅行実務、出入国手続実務について復習する

授業科目	専門演習ＩＡ			担当教員	宮良　俊行		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	2年・前期	必修・選択	必修

授 業 の ね ら い

日本政府の施策である「生涯スポーツ社会の実現」へ向け、「総合型地域スポーツクラブ」の設立・育成が進められている。「総合型地域スポーツクラブ」の基本や存在意義をおさえ、他人に説明することができる。

	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標	評価手段・方法	評価比率
関心・意欲・態度	地域のスポーツイベントにボランティアとして活動することができる。	参加態度	20%
思考・判断	地域スポーツの課題･問題点を発見し指摘することができる。	課題レポート	30%
技能・表現	スポーツイベントの運営を補助することができる。	課題レポート	10%
知識・理解	総合型地域スポーツクラブのことを説明することができる。	課題レポート	40%
出　席			受験要件
合　計			100%

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

課題レポートについては、理論的かつ実践的な内容をもつように書くことができたかを評価する。また、文字数不足および誤字・脱字は、減点の対象とする。授業態度・授業への参加については、発表の内容と討論への参加度合を評価する。

授 業 の 概 要

年間を通して、「総合型地域スポーツクラブ」に関する資料を購読し、基礎知識を習得し、問題意識を高めていく。また、グループワークを通して、全員で議論ができる。

教 科 書 ・ 参 考 書

教科書：『ジグソーパズルで考える　総合型地域スポーツクラブ』黒須　充　大修館書店
参考書：授業の中で指示する。

授業外における学修及び学生に期待すること

各地域で活動している総合型地域スポーツクラブに出向いて行ったボランティア活動を積極的に実施し、社会貢献して欲しい。また、指定された教科書を事前に読んでおくこと。

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予習・復習
1	導入	ゼミのテーマと進め方についてのオリエンテーションを行う。	先行文献を調べ、レジュメを作成する。
2	総合型地域スポーツクラブの設立に向けて	総合型地域スポーツクラブのビジョンづくり 10 のポイントについて	先行文献を調べ、レジュメを作成する。
3	総合型地域スポーツクラブの設立に向けて	データで探るスポーツクラブの現状について	前回のレジュメを熟読してくる。先行文献を調べ、レジュメを作成する。
4	総合型地域スポーツクラブの設立に向けて	スポーツクラブのマスタープランについて	前回のレジュメを熟読してくる。先行文献を調べ、レジュメを作成する。
5	総合型地域スポーツクラブの設立に向けて	住民参加の手法と実践について	前回のレジュメを熟読してくる。先行文献を調べ、レジュメを作成する。
6	総合型地域スポーツクラブの設立に向けて	自立した市民の力について	前回のレジュメを熟読してくる。先行文献を調べ、レジュメを作成する。
7	総合型地域スポーツクラブの設立に向けて	スポーツ組織の連携とそのあり方について	前回のレジュメを熟読してくる。先行文献を調べ、レジュメを作成する。
8	総合型地域スポーツクラブの設立に向けて	スポーツクラブ設立に向けたマーケティングについて	前回のレジュメを熟読してくる。先行文献を調べ、レジュメを作成する。
9	総合型地域スポーツクラブの設立に向けて	スポーツ NPO を活用したスポーツクラブのつくり方について	前回のレジュメを熟読してくる。先行文献を調べ、レジュメを作成する。
10	総合型地域スポーツクラブの設立に向けて	広域スポーツセンターの役割について	前回のレジュメを熟読してくる。先行文献を調べ、レジュメを作成する。
11	総合型地域スポーツクラブの運営方法	社会変革としての総合型地域スポーツクラブについて	前回のレジュメを熟読してくる。先行文献を調べ、レジュメを作成する。
12	総合型地域スポーツクラブの運営方法	「地域密着」から「人生密着」へ	前回のレジュメを熟読してくる。先行文献を調べ、レジュメを作成する。
13	総合型地域スポーツクラブの運営方法	スポーツクラブの会計と財務について	前回のレジュメを熟読してくる。先行文献を調べ、レジュメを作成する。
14	総合型地域スポーツクラブの運営方法	スポーツクラブづくりとマーケティングについて	前回のレジュメを熟読してくる。先行文献を調べ、レジュメを作成する。
15	前期のまとめ	前期を振り返り総合型地域スポーツクラブについて討論する。	前回のレジュメを熟読してくる。先行文献を調べ、レジュメを作成する。